

SOAS Language Centre

Lower Advanced Japanese Class Language Projects 2012

Nadine writes about Kenrokuen, one of the three greatest gardens in Japan



石川県金沢市の兼六園

金沢市の兼六園は茨城県の偕楽園と岡山県の個楽園とともに大切な公園です。兼六園の名前は六つの特徴について見せています。それは広さや遮断、技芸、古風、水路、眺めです。



広さ、水路、眺め

兼六園は 1620 年から 1840 年にかけて金沢城の前に建てられました。その間に、公園やお城は 1759 年の火事で崩壊しました。火事の後で、1774 年に修復が始まりました。その時、緑滝や茶室を創造しました。その後 50 年間、庭園を改良しました。



薄緑の苔むした岩の古風

やっと、1874 年に兼六園は一般公開されました。1881 年に、金沢城は壊されて、2001 年から修復が始まりました。今新しいそうです。兼六園を見ることができます。

どうして兼六園は日本三景の大切な庭園なのでしょう。

兼六園に日本で一番古い噴水があります。この噴水は自然の水の圧力で働いています。豊臣秀吉が前田家に「かいせき」と言う石のパゴダを与えました。特別な灯籠があります：二本の足だけの物です。金沢市でだけにある珍しいものです。

その上に、特別な松の木が植えられました。琵琶湖から来た物です。庭園の一番古い建物は夕顔亭と言います。坂の上にあるので、火事で破壊しなかったのだと思います。1774年に建てられました。

雁行橋（がんこうばし）は石で作った橋です。飛んでいるガチョウのようです。

兼六園のサイズは114,000 m²です。16 サッカー場のように広いです。木の数は8,750本ぐらいです。その上、183種類の植物があります。

兼六園を訪ねた私の印象は兼六園は大きくて、いろいろな場所を探し当てることができますから、神秘性のある場所です。観光客がたくさんいますけれども、兼六園は大きいだから、幽境を見つけることができます。

また様々な景色が楽しめるので、一日中兼六園で過ごしても、つまらなくないと思います。湖水の所は太陽が強いですが、お茶の家の坂の上で松が木陰をつくってくれます。濃いピンクの梅が咲いて、木立の濃緑と薄緑の苔むした岩が美しさを織り交ぜます。

桜の時期に行ったことはないけれども、そのころはもっときれいで魅惑的だろうと思います。公園は桜の木がたくさんあるので、美しくて、花見によさそうです。

何年か前にこの庭園について大学で少し勉強したことがあったけれども、自分の目で初めて見て、兼六園の美しさと大切さがうれしかったです。



遮断、技芸